



## セッション 非文字資料の情報化と教育

本セッションは、第1セッションから第3セッションの、画像、身体技法、民具の報告を受け、そうした非文字資料をどう体系化し、どうデータとして取り込むかという課題と、それを情報発信するために、今後どのような教育をするべきかという課題を受け持った。

体系化とは「非文字資料とは何か」という概念設計なく成立しない。その概念設計に当たって、すでに既存の博物館でどのような体系化が行われているか、またそうした資料を保存するためにどのような教育が行われているか、情報としてデータ化するにはどんな方法があるかを知る必要がある。

白庚勝氏(中国民間文芸家協会常務副主席)は、「中国民間文化保護の近影」と題し報告した。中国では、「中国民間文化遺産緊急プロジェクト」と「中国民間文化保護プロジェクト」が始動していて、博物館の建設、出版物の発行などが進められていると現況が紹介された。

ジュヌヴィエーヴ・ガロ氏(パリ国立文化遺産研究所校長)は、「フランスにおける文化遺産のプロたち 新し

い焦点、新しい挑戦」をテーマに、長い歴史のあるフランス博物館の学芸員の教育体制について報告し、パリの国立文化遺産研究所は、学芸員教育が充実しているフランスにあって非常に重要な役割を担っている内容が具体的に紹介された。

能登正人氏(神奈川大学助教授)は、「オントロジー理論に基づく非文字資料のデータ化可能性の検討」と題し報告した。特に非文字資料をデータとしてコンピューターに保存するための可能性について、主にオントロジー的側面からの説明がなされた。

アラン＝マルク・リュ氏(リヨン第3大学教授)と橘川俊忠氏(神奈川大学教授)はコメントとして、非文字資料を文化遺産として保存することの難しさ、そのための人材育成の難しさ、非文字資料自体を分類し、データ化することの難しさに理解を示しながら、今後非文字資料とは何かという理論的な基礎付けが急がれることを指摘した。(的場)



総合討論で各セッションのまとめが行われた。



会場風景



シンポジウム初日終了後には関係者によるレセプションが開催された。

